

日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2017年4月～2018年3月)

濱田 美和

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」, <http://www3.u-toyama.ac.jp/raicho/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際交流センター(2018年4月に国際機構に改組)が運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。本稿では、RAICHO サイトの2017年度の整備状況について報告し、今後の課題を述べる。

2 2017年度 RAICHO サイト整備状況

RAICHO サイトは2013年12月より外部サーバでの運用を始めたが、本学総合情報基盤センターより利用していた会社についてセキュリティ面での不安要素が見られるとの連絡を受け、2016年度末に一旦 RAICHO サイトの運用を停止することにした。他会社のサーバ利用も検討したが、データをそのまま移行するのは難しく、プログラムを一から組み直す必要があるという結果であった。プログラムの再構築には多額の経費が必要となる。RAICHO サイトの外部サーバでの運用は、セキュリティ面、予算面から非常に厳しいことがわかった。

そこで、学内の外部公開用サーバの利用を試みることにした。外部公開用サーバでは MySQL (データベース) が利用できないため、これまで外部のホスティングサービスを利用していたが、RAICHO サイトの一部のコンテンツのみの運用であれば外部公開用サーバの利用で対応できる可能性もある。「日本語学習支援サイト RAICHO」の日本語自己学習コンテンツは解答履歴を参照できるようになっていたが、この機能を外して、クイズ・テスト作成ソフト「THiNQ Maker」(ロゴスウェア株式会社)を用いて、コンテンツを作り直すことにした。

2017年度は日本語自己学習コンテンツのうち、日本語入力に関するクイズを「THiNQ Maker」で作成し、2017年度末に学内の外部公開用サーバを利用して RAICHO サイトを再公開した。

3 今後の課題

2017年度末に RAICHO サイトの日本語自己学習コンテンツの一部を再公開できたが、2016年度までに公開していたコンテンツのごく一部である。コンテンツの作り直しはひとつひとつ手作業で行っており、時間を要する。効率的に作業を進めていくための体制作りが必要である。